

会議録

会議の名称	令和7年度 第3回西東京市文化芸術振興推進委員会
開催日時	令和7年10月28日（火） 午後5時から午後7時
開催場所	田無庁舎 2階202・203会議室
出席者	委員：（対面）新藤委員長、遠野副委員長、笠原委員、中山委員、青木委員、森委員、濱田委員、亀田委員 （オンライン）宮内委員、中野委員 事務局：文化振興課渡邊課長、文化振興課文化振興係衣笠係長、文化振興課文化振興係神田主事
議題	1 「令和7年度施策・事業評価（令和6年度分）」調査結果について 2 その他
会議資料の名称	資料1 西東京市第3期文化芸術振興計画「令和7年度施策・事業評価（令和6年度分）」施策により生み出される効果に関する文化芸術振興推進委員会からの基本方針1に対する総合評価コメント（案） 資料2 西東京市第3期文化芸術振興計画「令和7年度施策・事業評価（令和6年度分）」施策別評価一覧表（基本方針2抜粋版）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>【以下、新藤委員長にて議事進行】</p> <p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインによる参加も可能としていることを説明。 ・事務局にて「第2回文化芸術振興推進委員会会議録（案）」を作成し提示。10月31日（金）までに委員より意見をいただき、修正した後に正式な会議録とすることで全会一致。 ・第2回文化芸術振興推進委員会において、「西東京市第3期文化芸術振興計画「令和7年度施策・事業評価（令和6年度分）」施策別評価一覧表（基本方針1抜粋版）」における各所管課からの回答内容等について、幾つかの確認事項が出ていたため、確認事項について事務局より回答。 ・事務局にて、資料1を用いて第3期文化芸術振興計画「令和7年度施策・事業評価（令和6年度分）」基本方針1に対する総合評価コメント（案）について説明。基本方針1に対する総合評価コメントとし、第5回文化芸術振興推進委員会にて改めて確認することで全会一致。 <p>2 【議題1】「令和7年度施策・事業評価（令和6年度分）」調査結果について</p>	

・事務局にて、資料1を用いて「令和7年度施策・事業評価(令和6年度分)」調査結果の評価方法について説明。

○委員長：

・資料1に基づき、本日の委員会では前回に引き続き、第3期文化芸術振興計画基本方針3つのうち、基本方針2「地域の文化芸術活動に関わる人と場を結ぶ・支える」に対する総合評価に向けて、委員より意見をいただくこととする。

【基本方針2「地域の文化芸術活動に関わる人と場を結ぶ・支える」について】

○委員長：

・グループワークにより基本方針2「地域の文化芸術活動に関わる人と場を結ぶ・支える」について、委員より意見をいただきたい。

<グループワーク>

【グループA】

・ボランティアについて、活用だけでなく育成も必要である。また、事業ごとではなく、市全体のボランティアがあっても良いのではないか。

・伝統文化等継承事業補助金や子供の文化芸術事業補助金などの補助金の交付基準について知りたい。

・自分たちの活動がうまく回ってれば良いのではなく、横のつながりも非常に重要である。さらに、横のつながりだけでなく世代間の交流も必要である。若い世代の活躍が見られることは良い面もある一方、世代間の交流ができていない、機会が提供できていないという面も課題として挙げられるのではないか。

・市内には「茨木のり子の家」などの評価されるべき文化資源がある。発掘・活用・発信できると良いのではないか。

【グループB】

・「自立的・継続的な文化芸術活動の推進」とあるが、「財政」、「人材」、「場所の提供」の3つが自立的な活動を支える重要な要素であるという話が出た。「子どもの文化芸術事業補助金」が設立されたことは「財政」を支えることにつながるが、あくまで助走の段階である。クラウドファンディングの活用等、本当の意味での自立ができるよう検討していく必要がある。

・感動した時、心を動かす瞬間の体感が「続けてよかった」、「続けていきたい」といった感情につながる。主催者側も参加者側も続けていく意味を感じられるようにしていくことが重要である。

・高齢化等によりボランティアが減少している。学校との連携や学校の授業単位を利用する等、若年層の取り込みにより増加が期待できるのではないか。

・市民文化祭等については、横のつながりを持って、「みんなで頑張っていこう！」という機運が高まっていると聞いているが、デジタルに親しみのない世代も関わるができる広報手段の検討が必要。また、広報については、文字だけでなく、ビジュアル面を考慮した広報を検討していく必要がある。

・ダンスなどの現代的文化に比べ、伝統的な文化は縮小傾向にあると感じている。拡大

が望まれる文化と伝統的な文化を掛け合わせるなど今に合わせた革新やエモーションに訴えかける内容の検討が必要である。

3 【議題2】その他について

- ・事務局にて、第3回文化芸術振興推進委員会の予定（令和7年10月28日開催予定）について説明。

4 閉会

以上